

本別高校 探究活動「とかち創生学」創設期から現在までの経緯

以前	本別町が包括ケア研究所と連携協定
H30. 8 (2018)	・ 28代校長 SSHを参考とした探究活動の導入検討。名称「とかち創生学」は他町生徒への配慮。 [1年探究方法、2年仮説・発表など本別町の町の課題や暮らしを題材]
10	・ 包括ケア研究所が本別高校への支援の提案（動画など）
11	・ 包括ケア研究所の提案 [1年動画マーケティング、2年レトルトカレー、3年町おこしイベント] 本高は進路Qなど手厚く1年インターンシップと地域理解、2年地域振興を検討。カレーは高齢化の町の 本別町ではうってつけ痴呆を防ぐ効果など
12	・ 探究活動計画（案）[H31:1年カレー商品化、R2:2年マーケティング、R3:3年イベント] ★レトルトカレーは本別高校の魅力を発信する起爆剤。更に町を巻き込む本別町議会での政策提案 （町づくり、交流、コミュニケーション効果への期待）まで持って行くとの勢い。
H31. 1 (2019)	・ H31計画案づくり [5月講演（役場講師：町の課題、前田さん講：農産物）、夏休み審査会：カレーづ くり、9月町議会傍聴、11月課題研究発表]
H31. 5 7 9 R2 3 (2020)	・ 5月講演（役場講師：町の課題、前田氏の講演：農産物）、帯大谷短大講師：カレーについて、 夏休み2日間でカレーづくりと審査会（町教委とPTAの運営、審査員は高橋町長、佐々木教育長、 山根本別高校の教育を考える会会長の方々の出席）→ ★「CS」と「とかち創生学」導入への加速化 ・ 福祉協議会への高校生の参加依頼 ・ 探究活動計画（案）[1年 豆スイーツ、2年 探究コーチ配置] ・ コミュニティ・スクール導入し、とかち創生学部会など3部会を設置（4/1施行）。
R2 4 7 9 11 12 R3 1 (2021)	・ 1年探究「豆スイーツ」2年探究「町の課題解決策」で活動開始 ・ 1年探究活動の調査発表会「 <u>豆について</u> 」。2年6班で町の課題解決策のための聞き取り。 ・ 1年「 <u>豆スイーツレシピ集</u> 」発行。 ・ 2年 6テーマの成果発表会（魅力発信、観光を考える、特産品開発、イベント制作、本別公園を考える、福祉を考える）。町長、教育長出席 JA本別町レトルトカレーの年度内の商品販売を目指す。 ・ 1年後期の探究活動の検討→ ★現在の1年後半～2年の活動が始まる ・ 2年活動の班員決定し活動スタート。コーチングマニュアル原案作成。
2	・ 探究コーチ打合せ [R3探究活動や計画について説明]
R3 4 5	・ 29代校長 JA本別町が「 <u>カレーでナイト</u> 」商品開発・発売開始 ・ スクール・ミッションを踏まえた探究活動「とかち創生学」設定意義の再確認 ・ パネルディスカッション「20年後も魅力的なまち本別について」（前田氏、何田氏など）
	○1年 とかち創生学 探究の基礎を学ぶ「地域をPRする動画・SNSの製作」 ・ 地域理解のための、動画・SNS作成を探究活動として実施 [10/19 成果発表会（5班）：参観者25名] ・ 2年次に向けた探究活動Ⅱ 課題設定と個人企画書作成、コーチの配置 [2/1 探究コーチとの顔合わせ、2/8 トークフォークダンス：講師7名] ※探究活動で初めての動画・SNS作製の取組。 ○2年 とかち創生学 ・ 探究活動Ⅱ（課題の確認・分析・収集・構築、探究計画、グループ活動） 町の課題に係る探究活動 [9班、16名のコーチが支援] - 研究成果 [11/17成果発表、12/9 町主催協議会発表、12/21 本別町議会議会 での提言、冬休み 論文執筆、1/19 日立製作所・北大主催発表、 2/3 フォーラム発表、2/21 研究論文発行] ※複数回の発表会、探究活動で初めての論文作成の取組 … 継続した活動の必要性
11 R4 1 (2022)	・ 2年「 <u>放課後SOY倶楽部</u> 」 生徒5名、松月堂（佐藤氏）、地域おこし協力隊（小池・南部氏）発足。以降は活動月1回程度。 ・ TVHでの「 <u>カレーでナイト</u> 」や「 <u>放課後SOY倶楽部</u> 」の紹介動画の放映
2	・ 2年トークフォークダンスで町の課題を深める取組
R4 4 5 7 8	・ 1年 本別魅力を5名の講師から聞き取り（トークフォークダンス等）、動画・SNS等に活かす探究活動 ・ 2年 提案のもと実践する取組開始。隔週で2時間設定し、固定コーチから変動コーチ制へ ・ 地域おこし協力隊イベントでR3探究活動「SOYクレープ」商品化 ・ 2年「 <u>放課後SOY倶楽部</u> 」学校祭での商品披露・販売開始予定。 ・ 事前に夏休みに活動を促すが具体や確定したコーチがいなかったため、一部の班の活動に留まる。

以降、各学年の探究活動が進められる

○1年 とかち創生学

探究の基礎を学ぶ「地域の魅力を発信する動画とポスターづくり」

- ・地域理解のための動画・ポスターづくりを通じた探究活動の実施

[10/5 成果発表会(動画)(5班): 参観者20名] → ※ 発表後、体育館壁にポスターを掲示しての質疑応答
後日、ポスターにQRコードを添付して動画視聴が可能に

- ・2年次に向けた探究活動Ⅱ(12月～3月)

3月末までに探究過程の理解し課題提案者の話をもとに課題毎の班の決定

R5から週1回1時間と固定コーチ制に戻す。(若手とベテランコーチ各班2名の確保)

新たな取組(※休みの指定課題、課題提案者募集、生徒と大人(課題発表者、コーチ制)との対話
探究コーチ募集ちらしを学校HPへアップ、2月町情報誌(かわし)に募集案内

○2年 とかち創生学

- ・探究活動Ⅱ(課題の確認・分析・収集・構築、探究計画、グループ活動)

- ・町の課題に係る探究活動 [7班、10名の変動コーチで、8月以降固定コーチ]

町から貸与されたタブレット(Classi)を活用した生徒とコーチの情報共有

探究ノート(通称:Tノート)による各授業毎のまとめと振り返り

- ・研究成果 [11/15成果発表、12/13 道CLASSプロ交流会(本別、帯三、帯工)]

12/20 本別町議会議会での提言、1/18探究チャレンジtokati

1/25地域連携特例校探究活動交流会(標津高校、助言:町教育長)

1/28アントレプレナー成果発表会(大豆エシカル商品開発)

- ・冬休み:論文執筆、休み明け:国語授業での校正作業等

- ・3月末 研究論文の発行

★「放課後SOY倶楽部」による「本高フィナンシェ」販売。

- 11 4名の活動と松月堂(佐藤氏)、地域おこし協力隊(小池・南部氏)との販売会

- ・11/3 道の駅での2時間で600個完売。

- ・11/13 藤丸での販売

★12/5(3年ぶり)JICA研修員との交流会(1年生探究活動の動画を英語で紹介)

- 12 JICA研修員の感想 → 本別の自然、文化が理解でき、本別を探検したいとの意欲がわいた。
本別町の生徒、学校、町人は強い絆があるだろうと思った。

- R5 1 探究サポーターの募集開始(課題提示者、アドバイザー、コーチ)

- ・地域に密着した活動とするための地域人材の掘り起こしと活動の活性化をねらいとした。

令和4年度文部科学大臣優秀教職員表彰(教職員一同)を受賞 【令和5年1月17日】

※地域との連携・協働した活動が評価を受ける。

- 3 イベント「とかち創生学」の日の開催 【令和5年3月9日】

(会場:道の駅 ステラ★ほんべつ、18:00~19:30) … ハイブリット型の開催

・R4学校運営協議会拡大会議(R4.12月実施)において、高校の探究活動はよい活動である。

多くの機会での活動への理解や浸透を図り、地域からの協力を得られるとよいとの意見があげられた。